

入試期間 その3

令和2年度入学者選抜前期試験が本日から実施されます。磐高生になる第一関門をぜひ突破していただけるよう心から願っております。

中学生の大半は、初めて入学者選抜の関門の前に立たされています。これから幾多の関門が自分の前に訪れていきます。例えば、大学入学者選抜。例えば、就職試験。それから、各資格試験。また、結婚や子供の誕生。親の介護。子供の成長途上のなにかの苦難。様々な病気との戦い。親との別れ。子どもの入学者選抜。そして、自分の老後。自分の介護。自分の死の受け入れ。

これから幾多と続く様々な関門の、まずその第一関門として、自分のものとして乗り越えていかなければならないハードルだと思います。

我々は、毎年、そのことをきちんと受け止めてこの期間を迎えます。学力テストの1時間1時間や特色選抜の面接や実技テストなど、きちんと対応して、力が発揮できる環境づくりに努めます。

その後の採点の公平公正性と、各種点検作業の正確さ。記録の確認や資料の確認。発表作業と合格発表時の様々な配慮。そして、合格者オリエンテーションと教科オリエンテーション。入学式の準備とその後の学習合宿の準備など、2か月以上にわたってその作業は続きます。

入試期間は、様々なリスク・マネジメントの構築も大切です。学校というところは、人が集まる場所であるので、危険を併せ持つことが大前提にあり、危険をはじめから排除できるところではないと考えます。危険を察知し、危険を排除していく丁寧な作業を組織的に進めざるを得ません。

不安な心を支える様々な言葉がけ、配慮されていることへの信頼、突然のアクシデントについても組織的に対応できる自信が構築されてこそ、磐城高校であると考えますので、教職員一同が一つになって進めていく所存です。

今回の入学者選抜は、25年ぶりの甲子園応援の活動を並行して進めていかざるを得ず、より組織的な対応と、あらゆる角度からの検証が付きまといまいます。それが当たり前のようにできてこそ、応援としての達成感もあり得ると考えます。

先日の在校生の人文字づくりと選抜機授与式の挙行も、組織的な対応があったからこそ、非常に満足できる行事になりました。スタッフの鍛錬のたまものでした。ヘリコプターからとった高月の校舎とグラウンド風景のなかの1WAKIの人文字は、とても美しいものでありました。そんな実績を積み上げて、この期間を過ごしてまいります。

